

肉用牛肥育経営安定特別対策事業（新マルキン事業）の
補填金単価（概算払）について
【平成27年5月分】

平成27年5月に販売された交付対象牛に適用する肉用牛肥育経営安定特別対策事業実施要綱（平成25年4月1日付け24農畜機第5478号）第6の9及び附則9の概算払の補填金単価については、下記のとおりです。

なお、補填金単価の確定値については、平成27年8月上旬に公表する予定です。

記

	肉専用種 (地域算定)	交雑種 (全国算定)	乳用種 (全国算定)
暫定補填金単価	—	—	24,700
概算払単価	—	—	20,700

- 注1：平成23年度第2四半期以降の補填金について、月毎に支払う方式としています。
- 注2：平成26年度より、四半期の最終月以外に販売された交付対象牛について、肥育牛補填金の概算払を行うこととしています。精算払については、四半期の最終月の補填金交付とあわせて行います。
- 3：概算払は、配合飼料価格安定制度の当該四半期の補填金がないと仮定して計算した額より4,000円/頭を控除した額としています。ただし、控除した額が1,000円/頭未満の場合は概算払を行いません。
- 4：補填金交付額に見合う財源が不足する場合等、上記補填金単価を減額することがあります。
- 5：平成26年度より、消費税抜きで算定しています。
- 6：交雑種及び乳用種の補填金単価については、独立行政法人農畜産業振興機構が下記ホームページで公表します。

(<http://www.alic.go.jp/operation/livestock/assistance-marukin.html>)

連絡先

価格安定課

担当：蔵原、神崎

電話：097-545-6594

(参考2)

主産物価格及びもと畜費の算定

1 主産物価格の算定

主産物価格は、牛個体識別全国データベースをもとに、本県からの出荷状況を考慮し、選定した以下の卸売市場における食肉流通統計（農林水産省公表）の取引データと本県における相対取引のデータをもとに算定しています。

【算定に用いる卸売市場】

大阪中央卸売市場、福岡市中央卸売市場、京都市中央卸売市場

2 もと畜費の算定

もと畜費は、牛個体識別全国データベースをもとに、本県への導入状況を考慮し、選定した以下の家畜市場における肉用子牛取引情報（（独）農畜産業振興機構公表）の取引データをもとに算定しています。

【算定に用いる家畜市場】

豊後豊肥家畜市場、豊後玖珠家畜市場、小林地域家畜市場、球磨家畜市場、天草畜産農業協同組合、今帰仁家畜市場

(参考1)

新マルキン事業における平均推定所得算定基礎(肉専用種)
【平成27年5月】

(単位：円/頭)

区 分	肉専用種
粗収益 (A)	998,772
生産コスト (B)	958,280
差額 (C) = (A) - (B)	40,492
暫定補填金単価 (D) = (C) × 0.8	—
補填金単価 (概算払) (D) - 4,000	—

粗収益 (A) = ① + ②	998,772
主産物価格 ① = a × b	989,784
枝肉市場価格 (円/kg) a	2,097
枝肉重量 (kg) b	472
副産物価格 ②	8,988
生産コスト (B) = ⑤ + ⑥ + ⑦ + ⑧	958,280
物財費 ③	873,111
もと畜費	494,837
飼料費	310,047
流通飼料費	309,009
麦類	10,316
とうもろこし	9,621
ふすま	8,381
かす類	9,277
配合飼料 (暫定値)	225,206
稲わら	22,162
その他	24,046
牧草・放牧・採草費	1,038
敷料費	11,525
光熱水料及び動力費	11,517
その他の諸材料費	311
獣医師料及び医薬品費	7,601
賃借料及び料金	3,950
物件税及び公課諸負担	5,465
建物費	12,630
自動車費	5,429
農機具費	8,330
生産管理費	1,469
労働費 ④	61,362
家族	56,044
費用合計 ⑤ = ③ + ④	934,473
支払利子 ⑥	12,741
支払地代 ⑦	439
と畜経費 ⑧	10,627

注1：補填金単価は100円未満切り捨て。

2：平成26年度より、消費税抜きで算定。